

自閉症児が人との関わりの中で生きる力を付けるための支援

小松市立安宅小学校 教諭 四藤裕子

研修のあらまし

対人関係の障害がある自閉症児が人との関わりの中で生きる力を付けるための支援をコミュニケーションの獲得を中心に、文献、関係機関や施設の見学、アセスメント、授業実践等を通して探ってきた。その結果、自閉症についての理解を深め、その特性を活かした支援、つまり、構造化や視覚的支援が大切であることが分かった。

1. 主題設定の理由

大南英明氏の生きる力の観点



「今後の特別支援教育の在り方について」
(最終報告)

自立や社会参加

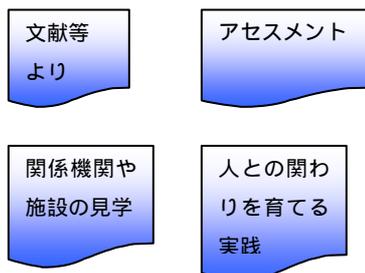
自立活動の指導

上記のことを踏まえ、私が子どもに身につけてほしいと考えた「生きる力」として、「**基本的な生活習慣の確立**」、「**社会のルールの獲得**」、「**コミュニケーション能力の獲得**」と考えた。人と関わっていく上で基本となると思われる「**コミュニケーション能力の獲得**」を中心に、事例を通して、研修主題に迫りたい。

2. 研修の目的

自閉症児がコミュニケーション能力を獲得するためには、どんな支援をすればよいかを探る。

3. 研修の方法



4. 実践

実態把握

対象児

T児 A小学校 情緒障害学級在籍
2年生 男児 自閉症(軽・中度自閉症)

【アセスメント】

太田のStage, PEP-R, コミュニケーションのサンプリング 結果は略

アセスメント等実態把握に基づいて、個別の指導計画を立てた。表は略

個別の指導計画に基づいて授業実践を行った。

授業は、週(水曜日の2限目)に1回行った

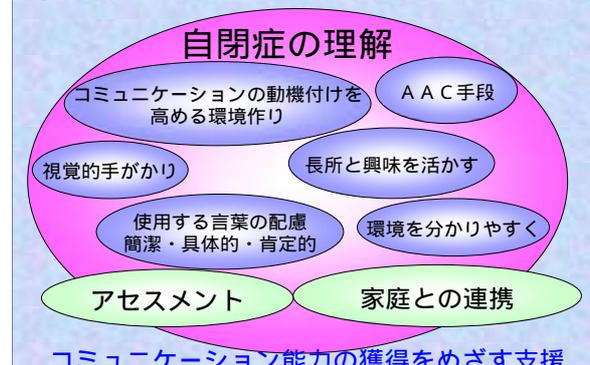
学校と家庭との連携

成果と課題

- ・アセスメントをしっかり取る 目標や課題が設定できた。
- ・家庭との連携 般化
- ・太田のStage Stage - 1へアップ
- ・PEP-R 発達尺度, 行動尺度の両面に成長

5. 研修のまとめと今後の課題

まとめ



今後はさまざまな場面で、コミュニケーション能力の獲得をめざし、また担任、母親、指導者など身近な人以外の大人や子どもたちとの関わりへと広げられるような支援を探っていきたい。